

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成20年11月13日(木)

場 所 2年2組教室

学 級 2年2組

(男子18名 女子17名 計35名)

指導者 教諭 吉田 寛子

1 単元名 「4 古典に親しむ 音読を楽しもう 枕草子／清少納言」(光村図書2年)

2 単元について

(1) 教材観

古典の学習においては、「古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること」という、学習指導要領の指導の留意点に即して、1年次では、古典の文章との「出会い」となる内容を、2年次では、古典に「親しむこと」を重点に学んでいく。2年次では教材文が四つに増えるが、日本を代表する有名な作品であり、比較的わかりやすい内容である。そのため、基礎的事項を学ぶ上で、最適であるといえよう。その上で、音読を通して原文に読み慣れることや、口語訳文を参考にしながら内容について考えることに取り組んでいきたい。

「枕草子」は、「徒然草」と共に、随筆文学である。また、「音読を楽しもう」という位置づけにふさわしい、読みやすくわかりやすい作品である。歯切れの良いリズムと言葉の響きを、音読を通して味わわせたい。また、本文を読んで、意味内容の大体をとらえさせ、自分たちと清少納言や兼好法師との共通部分と異なった部分を認識させながら、現代にも通じる日本人の季節感等のものの見方とらえ方について考えさせたい。

(2) 生徒観

男女ともに、積極的に自分の意見を述べようとする生徒や課題に前向きに取り組む生徒がみられ、授業が概ね良好な雰囲気の中で進められる学級である。しかし、一部の生徒の意欲の揺れが大きく、その生徒の言動に流されそうなこともある。全体の集中力が持続する時間が短く、長い文章から目を離さずに読み通す粘り強さにやや欠ける傾向にある。

4月に行われたNRT検査の結果を見ると、どの領域も全国の値に満たず、特に「読むこと」が全国の正答率の89%と落ち込んでいる。また、どの領域も男子よりも女子の方が正答率が高い。

読み物教材には意欲的に取り組むが、教科書から目が離れてしまい、描かれている事象を誤って理解したり、一部分だけを読んで、思いこみで解釈してしまう生徒もある。歴史的仮名遣いにより、内容理解がやや難解な古典の文章には少なからず抵抗感を持つ生徒が多いので、古典の世界に興味を持てるような授業を展開していきたい。

(3) 指導観

1年生の古典の学習では、音読や暗唱を中心に学習した。しかし、常日頃から、国語の授業では、自分の考えを持つことや自分の感性を磨くことにも取り組ませたいと考えている。随筆には作者の生活観や感性が表れるから、昔の人の感性と現代の感性とを比べて書くことに取り組んで、自分のものの見方を広げたり深めさせたりしたい。

下位の生徒の思考の援助になり、「ものの見方や考え方を広げる」という、国語科の目標に近づく手だてとなることから、昨年度から小グループでの話し合いに継続的に取り組んできた。歴史的仮名遣いに抵抗を示す生徒に関しては、小グループでの学習を利用して課題の克服に努めさせたいと考える。

3 単元の指導目標および評価基準

(1) 指導目標

【国語に対する関心・意欲・態度】

- 昔の人のものの見方や考え方にふれ、楽しんで読もうとする態度を育てる。

【書くこと】

- 先人と自分たちのものの見方や考え方について比べて文章を書かせる。(ア)

【読むこと】

- 古典の文体や言葉のリズム感をつかみ、音読させる。
- 古典に描かれた先人のものの見方、考え方をとらえさせる。(ウ・エ)

【言語事項】

- 古典と現代語の仮名遣いの違いや言葉の意味の違いを理解させる。((1)ア・ウ)

(2) 評価基準

関心・意欲・態度	読むこと	書くこと	言語事項
・作品の内容や作者のものの見方や考え方を自分なりにとらえ、進んで読もうとしている	・古典の文体や言葉のリズム感をとらえて音読することが出来る。 ・作品の内容や作者のものの見方や考え方を自分なりにとらえることが出来る。	・読み取ったことをもとにして、自分のものの見方や考え方と比べて文章に書くことが出来る。	・古典の言葉の表記や発音、意味について理解することが出来る。

4 指導計画

学 習 内 容	評 価 規 準		
	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
1 「枕草子」の基礎知識を押さえ、原文を音読し、古文の言葉の響きや調子を味わう。	「枕草子」第1段の原文を進んで音読し、読み取ろうとしている。	既習事項を思い出して音読し、古語のや意味に注意しながら内容を理解することが出来る。	現代と古典の仮名遣いや発音、古語の意味の違いを理解することが出来る。
2 「枕草子」に書かれた季本節感と自分のものの見方、考え方を比べて文章に書く。	「枕草子」に描かれた内容について進んで考え、表現しようとしている。	作品に描かれた内容を自分のものの見方や考え方と比べて読むことが出来る。	<書くこと> 先人と自分のものの見方考え方を比べて、文章に書くことが出来る。
3 「徒然草」の基礎知識を押さえ、文語文の特徴を生かして原文を音読する。	「徒然草」冒頭の原文を進んで音読し読み取ろうとしている。	古語の仮名遣いに注意しながら音読し、古語の意味に留意して内容を理解することが出来る。	現代と古典の仮名遣いや発音、古語の意味の違いを理解することが出来る。
4 「仁和寺の法師」の人物像と作者の考え方をとらえる。	「仁和寺の法師」の原文を進んで音読し読み取ろうとしている。	古語の発音や意味に留意し、ある法師の行動に対する作者の考えについて理解することができる。	現代と古典の仮名遣いや発音、古語の意味の違いを理解することが出来る。

学 習 内 容	評 価 規 準		
	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項 ＜書くこと＞
5 「平家物語」のあらすじをとらえ、冒頭部分を繰り返し、音読する。	「平家物語」の概要を知り、進んで音読しようとしている。	あらすじをとらえ、古語の仮名遣いや発音に留意しながら音読することが出来る。	現代と古典の仮名遣いや発音、古語の意味の違いを理解することが出来る。
6 特有の表現に注意しながら「扇の的」を朗読する。	特有の表現に注意しながら進んで音読しようとしている。	特有の表現やリズムに留意しながら音読することができる。	現代と古典の仮名遣いや発音、古語の意味の違いを理解することが出来る。
7 8 場面の状況や登場人物の心情を読み取る。	与一と源氏、平家の心情について進んで考えようとしている。	扇を射るまでの場面、射てからの場面について与一と源氏、平家の心情について理解することが出来る。	古典の言葉に対する理解を深め、語彙を豊かにすることが出来る。
9 「春暁」の詩を特有のリズム感をとらえて朗読し、描かれた情景や心情をとらえる。	漢詩の知識をふまえて、進んで音読しようとしている。	漢詩の知識と「春暁」に描かれている情景や心情を理解することができる。	漢詩に使われる言葉について理解を深め、語彙を豊かにすることが出来る。
「絶句」「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」を朗読し、そこに描かれた情景や心情をとらえる。	描かれた情景を進んで理解しようとしている。	「絶句」「黄鶴楼・・」に描かれている情景や心情を理解することが出来る。	漢詩に使われる言葉について理解を深め、語彙を豊かにすることが出来る。
「漢字を分解して考える」を通して漢字を構成する要素についての理解を深める。	設問に進んで取り組み、漢字を構成する要素について理解しようとしている。	漢字を構成する要素について理解することが出来る。	設問を通して語感を磨き語彙を豊かにすることで、生活の中で適切に使うことが出来る。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・「枕草子」に描かれた四季の趣と自分の考えを比べて読もうとしている。 【 関心・意欲・態度 】
- ・「枕草子」に描かれた四季の趣と自分の考えを比べて読むことができる。
- ・「枕草子」に描かれた内容をもとに、ものの見方や考え方を広げることができる。 1学年
【 読むこと エ・オ 】

(2) 本時の評価規準

観 点	評 価 規 準	具体の評価（判断）基準		C：努力を要する 生徒への支援
		A：十分満足できる	B：概ね満足できる	
国語への 関心・意欲 ・態度	「枕草子」に描かれた内容について進んで考え、表現しようとしている。	四季の趣について、進んで自分の考えをまとめ、「枕草子」の内容との違いを考えようとしている。	四季の趣について、自分の考えをまとめ、「枕草子」の内容との違いを考えようとしている。	グループ内で話し合ったことを参考にさせて、イメージを膨らませるように促す。
読むこと	作品に描かれた内容を自分の考え方と比べて読むことができる。	「枕草子」を参考にしながら四季の趣について、視点を設けて自分の考えをまとめることができる。	「枕草子」を参考にしながら四季の趣について、視点に沿って自分の考えをまとめることができる。	グループ内での相談を促し、まとめる内容の参考とさせる。
		「枕草子」に描かれた四季の趣と自分のとらえ方との違いを、理由に触れながら指摘することができる。	「枕草子」に描かれた四季の趣と自分のとらえ方との違いを指摘することができる。	口語訳を確認してから自分の考えとを比較させる。
言語事項	古語に対する理解を深め、語彙を豊かにすることができる。	口語訳を参考にしながら、情景をイメージし、古語の意味を理解することができる。	口語訳を参考にしながら、古語の意味を理解することができる。	原文と口語訳を照らし合わせ、抜き書きさせる。

(3) 構想および個に応じた指導の工夫点

下位の生徒は、口語訳を十分に理解していなかったり、まとめる内容をイメージ化させることが難しいと考える。次のことを読むための手だてとして行いながら授業を展開したい。

- ① 家庭学習：2時間の指導計画では、授業で音読に費やす時間が限られてしまうため、家庭学習に暗唱を取り入れることで、音読の機会を増やすと共に、発表の機会を設けて意欲化を図る。
- ② 学習形態：小グループで話し合い、互いの読みや考えを豊かにすることで意欲につなげたり、他の生徒の意見を参考にしながらイメージを膨らませることで、下位の生徒も自分の考えをまとめる手だてとする。
- ③ 自己評価：毎時間自己評価を行い、生徒の実態を把握した授業を行うと共に、個に返すことを繰り返すことで、日々の自分の変化に気付かせ、意欲化を図る。

また、個々の作品は全体場で紹介し、古典の世界と現代のものとのとらえ方に相違点や不変的なところがあることに気付かせて、古典に親しもうとする意欲につなげていきたいと考える。

(4) 展開

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	○評価【方法】 ☆支援の手だて
導 入 5 分	1 前時の活動を想記する。 2 学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の確認と発表 ・「枕草子」第1段を音読し、作者の季節感を確認する。 ・自分の季節感を文章にまとめて、古典に描かれた内容と自分のものの見方考え方とを比べてみることを確認する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「枕草子」と自分にとっての季節の趣を比べてみよう。 </div>			
展 開 40 分	3 学習方法を確認する。 4 小グループごとにて話し合い、まとめる四季の趣についての視点を決める。 5 グループで設けた視点に沿って、自分が感じる四季の趣について作文にまとめる。 6 全体で交流し合う。 7 古典の世界と現代とのとらえ方の違いを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」第1段の既習事項をもとにすること、小グループで活動した後、個々でまとめることを確認する。 ・小グループで意見の交流をする。 ・全員が書くことを前提に、時間内で書ける範囲とする。枕草子の春の段を参考にさせる。 ・挙げられた季節を表すこと（もの）を板書しながら考えを交流し合う。 ・清少納言と自分たちの四季の趣の共通点と相違点を確認する。 ・時代を越えて不変的な部分があることに気付かせる。 	<p>☆話し合いが停滞しているグループへの助言。</p> <p>○グループ内で自分の考えを述べようとしているか。 【観察】</p> <p>☆春の段の口語訳を参考にさせる。グループ内の相談を促す。 ○考えをまとめようとしているか。 【観察・シート】</p> <p>○考えをまとめようとしているか。 【発言・シート】</p>
終 末 5 分	9 次時の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・「徒然草」を読むことを確認。 ・自己評価を記入させる。 ・家庭学習を指示する。 	